| 授業科目名：<br>武道演習 | 教員の免許状取得のための<br>の<br>選択科目 | 単位数：<br>２単位 | 担当教員名：吉鷹　幸春<br>担当形態：単独 |
|---|---|---|---|
| 実務内容<br>（実務家教員の場合） | | | |
| 科　目 | 教科及び教科の指導法に関する科目<br>（中学校及び高等学校保健体育） | | |
| 各科目に含めることが必要な事項 | 教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目 | | |

「学位授与の方針」との関係

星槎大学は、「人を認める、人を排除しない、仲間を作る」という三つの約束のもと、「人と人、そして人と自然とが共生する社会の創造に貢献する」を教育理念としています。共生科学部は、この三つの約束、教育理念に基づき、「21 世紀を創造する広く深い知の涵養」「共生する心の耕作」「課題探究能力の育成」「インクルージョン教育に基づいた社会実践を担い、社会変革を目指す人材の養成」を教育目的とし、以下の「星槎共生スピリット」を身に付けたものに学位を授与します。

A. 共生社会創造のために、教育、福祉、環境、国際関係、スポーツ身体表現の専門的知識を生かし、狭い専門領域を越えて統合しようとする意志を持つこと。
B. 問題が生起する現場において、専門知や統合知を使い、解決のために実践しようとする気概を持つこと。
C. 共感理解教育の理念を認識し、実践すること。
D. 多様な人々や生命に対して、他者を認め、他者を排除せず、仲間を作るという星槎の三つの約束の精神に則って、共生社会の創造に貢献する姿勢を身につけていること。
E. 個人や社会にとって必要な課題の解決のため、自律的な課題探究能力を身につけていること。
F. 共生社会創造の目的のために、絶えず学び続ける意欲を持つこと。

授業の到達目標及びテーマ

（１）武道の教材の作り方を習得する。
（２）武道の指導法を、主体的で対話的な深い学びを通して習得する。
（３）武道の教材づくりや指導法の振り返りを通して、武道の楽しさを伝える力を身に付ける。

授業の概要

平成 24 年度より中学校では武道が必修科目となり、文部科学省の学習指導要領に従って柔道を始めとする様々な武道の特性について学び、学校における授業展開ができる能力を養う。日本文化の一つである礼法、礼儀作法等の大切さも学ぶと共に、武道の歴史的背景や武道とスポーツの違いについても理解を深めていく。また、中学・高校の授業実施に向けて、武道（柔道、合気道など）の十分な知識と技能を身につけることを目標とする。特に基礎・基本の大切さとその指導方法を学ぶ。

授業計画

第１回：武道の特性と教育上のねらい

第２回：武道の歴史や思想について
第３回：実技指導方法　安全に実技指導を行うための方法を学ぶ
第４回：受け身を修得する　多くの武道において基本となる受け身について習得する
第５回：柔道の基本となる投げ技とその指導方法(1)（出足払、膝車、大外刈）とその指導方法について学ぶ
第６回：柔道の基本となる投げ技とその指導方法(2)（背負投、一般背負投、体落）とその指導方法について学ぶ
第７回：柔道の基本となる投げ技とその指導方法(3)（大腰、浮腰、払腰）とその指導方法について学ぶ
第８回：柔道の基本となる投げ技とその指導方法(4)（払腰、体落、大腰）とその指導方法について学ぶ
第９回：柔道の基本となる寝技とその指導方法(1) 柔道指導の基本となる固め技（袈裟固、横四方固、縦四方固、上四方固）とその指導方法について学ぶ
第１０回：柔道以外の武道（合気道など）の基本技術を習得する
第１１回：武道（柔道を中心として）の指導案作成のポイント
第１２回：武道（柔道を中心として）の指導案の作成
第１３回：武道（柔道を中心として）の指導案の検討（グループディスカッション）
第１４回：武道（柔道を中心として）の模擬授業
第１５回：振り返りの発表（プレゼンテーション）とまとめ
定期試験

教科書
なし

参考文献
・新しい柔道の授業づくり（大修館書店 2003 年）　著者：本村清人、坂田敬一、他
・中学校学習指導要領解説 保健体育編 平成 29 年（文部科学省、東山書房）
※以下の URL 参照：
http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/__icsFiles/afieldfile/2011/01/21/1234912_009.pdf
・高等学校学習指導要領解説 保健体育編 平成 21 年（文部科学省、東山書房 2015 年）
・Q＆A 中・高柔道の学習指導（大修館書店 2006 年）
・その他、必要に応じて適宜紹介する。
・Web 上の柔道動画（多数）を準備学習として視聴を薦める。

学生に対する評価
スクーリング評価（２５％）、レポート評価（２５％）、科目修得試験（５０％）を総合して評価する。